

千葉市感染症発生動向調査情報

2023年 第37週 (9/11-9/17) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	定点	37週	36週	35週	34週	
上段: 患者数 下段: 定点当たりの報告数 「定点当たりの報告数」とは 報告数/報告定点数	小児科	18	18	18	18	*正式名称は インフルエンザ/COVID-19定点
	眼科	5	5	5	5	
	*インフル/COVID	28	28	28	28	
	基幹	1	1	1	1	

定点	感染症名	注意報	千		葉		市		千葉県
			9/11-9/17	9/4-9/10	8/28-9/3	8/21-8/27	9/4-9/10		
			37週	36週	35週	34週	36週		
小児科	RSウイルス感染症		2	0	2	2	15		
	咽頭結膜熱		11	8	7	3	140		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓↓	27	36	18	21	189		
	感染性胃腸炎	→	92	92	105	97	455		
	水痘		0	1	1	0	2		
	手足口病	→	24	22	21	13	130		
	伝染性紅斑		0	0	1	0	1		
	突発性発しん		5	5	7	5	26		
	ヘルパンギーナ		15	10	11	22	53		
	流行性耳下腺炎		1	0	1	0	5		
*インフル/COVID	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)	★○	334	272	151	50	1751		
	新型コロナウイルス感染症	↓↓	410	744	552	539	5600		
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	1	1		
	流行性角結膜炎		3	5	2	2	22		
基幹	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0		
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0		
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0		
	無菌性髄膜炎		0	0	0	1	0		
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0		

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

「流行中」 流行発生警報開始基準値以上

「やや流行中」 流行発生注意報基準値以上、又は流行発生警報開始基準値を下回った後に流行発生警報終息基準値以上

2 全数報告対象疾患: 4 例

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	IGRA検査	腸管出血性大腸菌感染症	女性	30歳代	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認
	男性	70歳代	病原体遺伝子の検出				
水痘(入院例)	男性	70歳代	病原体の分離・同定	-	-	-	-

・第37週は、結核2例(75)、腸管出血性大腸菌感染症1例(20)、水痘(入院例)1例(1)の発生届があった。

※ ()内は2023年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第37週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

前週より減少し1.50となった。過去10年の同時期と比べると多め。年齢階級別の報告数は4歳及び7歳で最多。区別では、稲毛区(3.33)が最多で7歳の報告が最も多かった。

<感染性胃腸炎>

前週から横ばいで5.11となった。過去10年の同時期と比べると最多のまま。年齢階級別の報告数は1歳で最多。区別では、若葉区(15.50)が最多で2歳の報告が最も多かった。

<手足口病>

前週からほぼ横ばいで1.33となった。過去10年の同時期と比べると少なめ。年齢階級別の報告数は1歳で最多。区別では花見川区及び稲毛区(共に3.00)が最多で、花見川区で6-11か月から2歳の報告があり、稲毛区では1歳の報告が最も多かった。

<インフルエンザ>

前週より増加し11.93となり、流行発生注意報基準値(10.0)を上回った。過去10年の同時期と比べると最多。年齢階級別の報告数は10-14歳で最多で、10歳未満では6歳及び7歳で最多。区別では稲毛区(22.25)で流行発生注意報基準値を上回り最多で10-14歳の報告が最も多かった。他に中央区(15.60)で流行発生注意報基準値を上回った。

<新型コロナウイルス感染症>

前週より減少し14.64となった。年齢階級別の報告数は10-14歳で最多。区別では、中央区(34.80)からの報告が最多で40歳代の報告が最も多かった。

■ 「過去10年との比較グラフ」及び「区別の発生グラフ」はWebSiteでご覧いただけます。

・ 過去10年との比較グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2023.pdf>

・ 区別の発生グラフ

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph_ward2023.pdf

■ トピック ■

<インフルエンザ>

インフルエンザの全国レベルの第36週時点の定点当たり報告数は4.48で、第34週から連続して増加しています。過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、沖縄県(13.43)が最も多く、次いで長崎県(8.80)、千葉県(8.58)の順となっています。

千葉市のインフルエンザの第37週は前週より増加し11.93となり、流行発生注意報基準値(10.0)を上回りました。新たなシーズンに入り2週目で基準値を上回るのは、現在の調査方法が開始された1999年以来初めてとなります(これまで最も早く流行発生注意報基準値を上回ったのは、2009年の新型インフルエンザのパンデミック時を除いて第50週:2007年10.04、2014年12.75)。今シーズンである第36週及び第37週の定点医療機関からの発生患者報告数は606例で、男性295例(48.7%)、女性311例(51.3%)であり、年齢階級別では10-14歳(109例、18.0%)が最も多く、次いで6歳(70例、11.6%)、7歳(68例、11.2%)の順となっています。全体の報告数に占める10未満の割合は65.3%(396例)で、同じく20歳未満の割合は88.9%(539例)となっています(図1)。

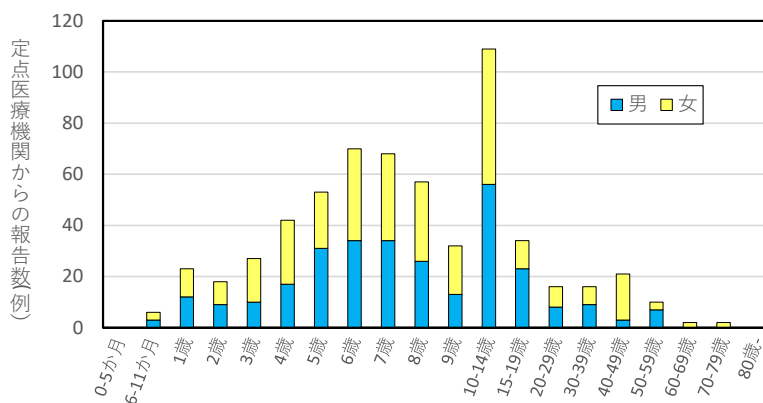


図1 定点医療機関からの性別・年齢階級別報告数
(2023年第36週-第37週 n=606)

区別では、稲毛区、若葉区、緑区及び美浜区で前週より増加しており、稲毛区(22.25)と中央区(15.60)で流行発生注意報基準値を上回っています。小児科・インフルエンザ定点医療機関の協力による型別迅速診断結果は、結果が判明している547検体中A型が546例、B型1例となっています。

昨年、一般社団法人日本感染症学会は、2020/21及び2021/22シーズンに国内での流行がなかったことから社会全体のインフルエンザに対する集団免疫が低下しているため、2022/23シーズンについては、一旦感染がおこると、小児を中心に社会全体で大きな流行となるおそれがあるとして注意喚起を行っていました。2022/23シーズンに大きな流行はありませんでしたが、当該シーズン後期に季節外れの流行が継続した後増加し、そのまま今シーズン(2023/24シーズン)に入り2週目に定点当たり報告数が基準値を上回るなど、例年とは異なる動向が見られることから、今後の発生動向には注意が必要です。

予防する有効な方法は、①外出後や食事前の流水・石鹸による手洗い、②人混みや繁華街への外出を控える、③十分な睡眠及び休養、バランスの良い食事、④症状がある時の咳エチケットの励行及びマスク着用、⑤適度な湿度の保持、⑥ワクチン接種が挙げられます。

詳細は下記URLをご参照ください。

「インフルエンザを予防しましょう！」

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/seisaku/influenza_prevention.html

「高齢者インフルエンザ予防接種のご案内」

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/hokenjo/kansensho/elderly_influenza.html

<新型コロナウイルス感染症>

全国レベルの第36週時点の定点当たり報告数は20.19で、前週より減少しました。都道府県別では、宮城県(32.47)が最も多く、次いで岩手県(29.87)、千葉県(27.45)の順となっています。

千葉市の新型コロナウイルス感染症の第37週の定点当たり報告数は前週より減少し14.64となりました。第19週から第37週までの発生患者報告数は5,234例で、男性2,482例(47.4%)、女性2,752例(52.6%)であり、年齢階級別では50-59歳(723例、13.8%)が最も多く、次いで40-49歳(633例、12.1%)、10-14歳(565例、10.8%)の順となっています(図2)。

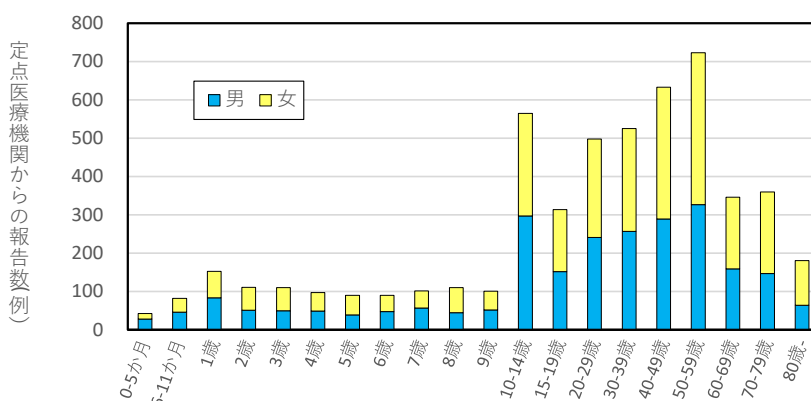


図2 定点医療機関からの性別・年齢階級別報告数

(2023年第19週-第37週 n=5,234)

ウイルスのゲノム解析結果では第36週にXBB系統が9例検出されています。XBB系統は第10週から検出され始めており、2023年のゲノム解析株数224株中、XBB系統(101株、45.1%)が最も多く、次いでBA.5系統(83株、37.1%)、BA.2系統(37株、16.5%)の順となっています。

予防する有効な方法は、ワクチン接種、小まめな換気、外出後の流水・石鹸による手洗い、人混みや繁華街への外出を控える、「三つの密」の回避及び人と人との距離の確保、効果的な場面でのマスク着用が挙げられます。

詳細は下記URLをご参照ください。

「新型コロナウイルス感染症の基本的な感染対策について」

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/seisaku/covid-19_kansen taisaku.html

「新型コロナワクチン接種についてのお知らせ」

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/seisaku/covid19-vaccine.html>